

○ 本校の概要

大田区立大森第一小学校 児童数 542名 学級数:16学級 教員数:21名 開校146年 特色ある教育活動:海苔付け体験・麦わら細工・大・バレード(運動会での6年生の鼓笛バレード) 令和元・2年度 東京都教育委員会持続可能な社会づくりに向けた教育推進校 研究主題 あしたへつなぐ、わたしたちにできること・・・ ー持続可能な社会の実現に向けて、自分ごと化をすすめ、子供たちの深い学びを育む大森第一小のSDGsー 自己肯定感の向上を教育活動の軸に据え、異学年交流(縦割り班活動、兄弟学年清掃、交流給食)に取り組んでいる。今年度は新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、実施可能なものから実施している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価 人数	コメント
プラン1 きる 未 来 子 供 社 会 を 創 造 的 に 生	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にシなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		4:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。			A	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。		3:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。			B	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		2:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。			C	
		地域教材を活用して、児童が地域住民と関わり、地域に愛着や誇りをもてるような授業を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		1:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。			D	
プラン2 学 力 の 向 上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		4:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。			A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。		3:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。			B	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。		2:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。			C	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		1:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。			D	
プラン3 豊 か な 心 の 育 成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		4:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立った適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。			A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。		3:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立った適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。			B	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		2:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立った適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。			C	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。		1:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立った適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。			D	
プラン4 増 力 進 の 向 上 と 健 康 の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		4:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。			A	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		3:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。			B	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		2:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。			C	
		計画的に休むく運動やリズムランニングを実施したり、大スポーツラリーをはじめとする運動に親しめる環境を設定したり、普段の学習の中にオリンピック・パラリンピック教育を推進したりする。	4:「組織的対応おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		1:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。			D	
プラン5 魅 力 有 る 教 育 環 境 づ く り	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		4:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。			A	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。		3:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。			B	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		2:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。			C	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行なった。 3:学期に2～3回行なった。 2:学期1回以上行なった。 1:実施しなかった。		1:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。			D	
プラン6 な っ て 学 校 と も に 家 庭 的 ・ 地 域 育 が 一 体 と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。		4:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が90パーセント以上。			A	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。		3:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が80パーセント以上。			B	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行なった。 3:学期1回以上行なった 2:年1回以上行なった。 1:実施しなかった。		2:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が70パーセント以上。			C	
		見守り隊、おやじの会、金管バンド、夏休みワクワクスクールなど、地域の方々と児童が触れ合ったり、地域の中で活躍したりできるようにする。	4:「組織的対応おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		1:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が70パーセント未満。			D	
		教員が地域の行事や活動に参加する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。